

会 議 録 (要 旨)

| | |
|------|---|
| 会議名 | 田川市新中学校のあり方に関する審議会 第3回会議 |
| 開催日時 | 平成26年12月11日(木) 10時～12時 |
| 開催場所 | 田川市民会館 講座室1-1 |
| 出席者 | (委員) 神谷委員、四戸委員、大宅委員、二場委員、児島委員、中山委員 穂山委員、浦野委員、加治委員、森委員、財津委員 (事務局) 尾垣教育長、犬丸教育部長、小林学校教育課長、大峯教育総務課長、 山本生涯学習課長、大久保学校教育課主任 |

| 審議事項 | 審議内容 |
|---|---|
| 平成26年12月議会の答弁について | <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① 平成26年12月議会の一般質問で学校施設の長寿命化計画に関する質問があった。教育委員会は計画を作っていくと答弁したが、中学校の再編をやらないという誤解を市民に与えかねない。答弁の意図を確認したい。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>① 今後、大規模改修の年次計画を作っていくが、それは小学校を念頭に入れたもの。中学校は再編問題が先決事項。その進み具合にもよるが、中学校は再編計画を中心に考えていきたい。</p> |
| アンケートの進捗状況について | <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① アンケートの進捗状況はどうなっているか。いつごろ結果を見られるか。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>① 総計5,331枚を配布し、現時点の回収数が1,643枚。回収率は30.8%となっている。自由意見の用紙も配布したが、320件の回答があった。データ集計は12月末に完了予定。結果は次回の審議会で提示する予定。</p> |
| <p>[審議資料1] 校区と学校の位置関係 ※序論～Point Checkも併せて説明 ※審議資料は別途掲載しています</p> | <p>【事務局の説明】</p> <p>(序論～今再編したらどのくらいの規模)</p> <p>○ 今現在の在籍生徒数を単純に校数で分けた場合の学級数のイメージを図示している。2校なら1学年6クラス、3校なら1学年4クラス、4校なら1学年3クラス程度のイメージでとらえていただきたい。</p> <p>(校区と学校の位置関係)</p> <p>○ 新中学校創設基本計画の策定方針では、「新たな中学校区の境界線を現小学校区の境界線に沿って設ける」としているので、小学校区境界線と現中学校区の位置を図示した。</p> <p>(Point Check 学校選択制のいろいろ)</p> <p>○ 再編を多面的に審議していくため、学校選択制が多種あることを図示した。</p> |

| 審議事項 | 審議内容 |
|--|--|
| | <p>【委員の質問・意見】 (学校選択制について)</p> <p>① 新中学校を設立する際、大規模な形で学校選択制を採用するかどうか論点となるので理解を深める必要がある。</p> <p>② 選択できる学校が横並びで同じ取り組みをしていては、選択制の意味があまりない。学校間の競争力がないとうまくいかない。</p> <p>③ 自由選択制で、一つの中学校に希望者が集中した場合、どうやって選抜するのか。</p> <p>④ 市内全学校で自由選択制を採用したら、境界線が不要となると書いているが、どの学校でも必ず入学できると誤解を受けないか。</p> <p>⑤ かなり遠くから学校選択ができる場合の一般的な通学方法は何か。</p> <p>⑥ 自由選択制を採用しても多くの保護者は、小学校の友達と同じ学校に通わせたいだろうから、生徒数はあまり偏らないのではないか。</p> <p>⑦ 小学校で人間関係がうまくいかなかった子には進学しやすいのではないか。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>③ 自由選択制にも色々な形がある。定員の10%だけを自由選択枠にして、希望者を募り、希望者が多い場合は抽選するなどの方法がある。</p> <p>④ 制度として完全自由は想定できるので境界線を無くすことはできる。ただし、実際には教室の定員があるので抽選などの条件が付くことになる。</p> <p>⑤ 他校区から通学する場合、保護者が送迎するのが一般的である。自治体によってはスクールバスを導入している。</p> |
| <p>[審議資料2] 7中学校から 2中学校を 目指す理由</p> | <p>【事務局の説明】</p> <p>○ 新中学校は、子どもたちに最良の教育環境をつくるのが目的である。校区再編基本方針では、その環境を実現する学校規模は、1学年3学級以上、かつ3学年9学級以上が望ましいとしている。新中学校は、この規模を将来にわたり維持していくことが必要である。将来人口の推計から、市内を3校(猪位金を除く)とすれば、20年後には適正規模を維持することが難しくなってくる。そのため基本計画の策定方針は、7中学校から2中学校を目指すとしている。しかし学校数とその配置の決定は、生徒の通学距離、時間、方法、安全の確保が重要な課題にあるため、その適正を検証した上で決定するとしている。</p> <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① 人口推計にはいくつか見方があり、田川市の場合、減少が加速する場合と減速する場合のどちらにも振れる可能性がある。</p> <p>② 飯塚地区にできる新しい県立中高一貫校には、田川市からどの程度流出すると想定しているか。</p> <p>③ 既に10%程度の子供が市外の学校に通っているが、今後、少子化をにらんで私立中学校が学生確保にさらに力を入れてくるだろう。</p> <p>④ 学校を新築、または大規模改修した場合、40年ぐらいはその規模を使うと考えていいか。</p> <p>⑤ 田川市から市外の中学校に通う生徒はどのくらいいるのか。</p> |

| 審議事項 | 審議内容 |
|------------------|---|
| | <p>⑥ 子どもの教育環境のために引っ越すことが当たり前の時代となっている。地方は選べる学校が限られるので特に人口流出が進む。いい学校があれば流出を緩やかに抑えられる。</p> <p>⑦ 子どもの減少は、世帯の減少によるものだと思うが、資料の人口推計は世帯の減少がどの程度加味されているか。</p> <p>⑧ 子どもが減っていく前提で話すだけでなく、流出を食い止めるための方法も議論していくべきではないか。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応 (県立中高一貫校について)</p> <p>② 田川市の受験予定者数は、育徳館と合わせて70余名。ただし中高一貫校の中学生定員は80名であるのに対して、受験者説明会の出席者が1千人以上いたという情報がある。田川市から通う人数は絞られると思う。 (新築、または大規模改修について)</p> <p>④ 今の大規模改修の考え方は、出来るだけ長寿命化させようという考え方であり、40年は使用すると考えておくべき。 (市外の公立中学校に通う生徒数について)</p> <p>⑤ 私立中学校が72人、県立育徳館23人を含む公立中学校が84人、計156人が市外の中学校に通っている。 (人口推計について)</p> <p>⑦ 人口推計は校区再編基本方針策定時に、田川市総合政策課から提供を受けたものであるため、推計方法の専門的なことはわからないが、各世代ごとの減少傾向を反映した推計値である。</p> |
| [審議資料3] 通学の実態 | <p>【事務局の説明】</p> <p>○ 田川市立中学校に通う生徒は、市内中学生が1,192人、市外から通う生徒が42人、計1,234人となっている。これに対して、住民票人口の中学生は1,348人である。うち1,192人が市内中学校に通っているので、残る156人が市外の中学校に通っていることになる。市外の中学校に通う生徒の通学校別内訳、中学校区別内訳を表にまとめている。</p> <p>【委員の質問・意見】</p> <p>① 私立中学校に通う生徒数が以前より増えているのではないか。経年変化を資料で提示してほしい。</p> <p>② 市外校へ通っている生徒は、後藤寺中学校区が最も多く40人となっている。考えられる要因は何か。</p> <p>③ 後藤寺は昔から商店街のお子さんが私立に行く傾向があるように思う。</p> <p>④ 地元の中学校に子どもを通わせない保護者に理由を尋ねたことがある。田川の中学校に通わせたくないというのが理由だが、小学校の雰囲気から感じていることだと思う。このまま新中学校を作っても、流出は止められないのではないか。新中学校に特色を持たせて、保護者がこの学校に通わせたいという雰囲気を作っていくべき。</p> <p>⑤ 学校再編の議論は、多くの自治体で数合わせの議論となっている。再編で1学年6学級程度になるのはメリットの方が多いと思うが、学校運営の中身をしっかり作れなければ、かえって悪い流れになると思う。公立中学校</p> |

| 審議事項 | 審議内容 |
|---------------------------|--|
| | <p>だからといって予め限界を設けず、やれる限りの工夫を考えるべき。</p> <p>⑥ かつて東京23区では、区立中学校は存在価値がないかのように保護者から言われていた。今は経済的に余裕がある家庭でも区立に通わせている。かつては区立中学校が悪かったから私立に通わせていただけで、徒歩や自転車で通える公立中学校が良い学校になったら、そちらに通わせるということだ。</p> <p>⑦ 田川市立中学校の卒業生の進路が分かる資料が見たい。高校、大学、就職までどう進んでいるかは保護者が気になるところだと思う。</p> <p>⑧ 猪位金学園は小中一貫校としてスタートしているが、今後、他校区から生徒を受け入れるとすれば、どのくらいの数を受け入れられるかを知りたい。</p> <p>⑨ 新中学校に特色を出すべきと議論しているが、仮にスポーツなり音楽なりに特色を出すといっても、指導ができる教員を配置できるのか。開校してみたら、教員はこれまでと同じでは、流出は止められないのではないか。</p> <p>⑩ 資料5ページの「7中学校から2中学校を目指す理由」は、学校を運営する側のニーズであり、保護者のニーズではない。保護者はこの先にどんな学校の質が約束されているが気になるところだと思う。</p> <p>⑪ 集団の中で学ぶことは大事だから人数は多いほうがいい。しかし、学力に応じた少人数指導は実施してほしい。例えば1学年に3学級できた場合でも、3学級をさらに習熟度別に分けて指導してほしい。教員が増えるという説明だけでなく、そういう取り組みも明確にほしい。</p> <p>⑫ 学力を向上させるために、絶対に必要とされる標準的な取り組みは決まっている。そのうち予算がかかるものでもこれは絶対やるべきだというのは、ここで議論して、教育委員会に意見していかなければならない。</p> <p>【事務局の回答・意見】 ※番号は委員の質問番号に対応</p> <p>② 後藤寺校区はバスターミナルが近いことが大きな要因でははないか。</p> <p>④ 特色のある、魅力ある学校をどういう風につくっていくかを議論し、再編までに作り上げていかなければならないと考えている。</p> |
| [審議資料4] 地域との関係 の再構築 | <p>【事務局の説明】</p> <p>○ 通学区域が変わり、中学校の枠組みが新たになると、学校を単位として関わってきた保護者や地域住民の関係が変わる。地域と学校の関係が大きな課題となる。また、校区活性化協議会は中学校区を枠組みにして組織されているので、校区矛盾地域がある校区は中学校区の境界線が変更された場合、組織の枠組みを一部変更しなければならない可能性がある。</p> |
| その他 | <p>【委員の質問・意見】</p> <p>○ 次回アンケートの結果や自由意見を見て、保護者目線で議論を深めたい。</p> |